



環境・会報

第13号

所沢市環境推進員連絡協議会

「環境推進員制度14年目を迎えるにあたって」



所沢市環境推進員連絡協議会
会長 齊藤 禮次郎

所沢市環境推進員制度が発足してから、今年の4月で14年目を迎えます。私達の活動の中には環境美化活動の推進、ゴミの減量・リサイクル促進、ゴミのポイ捨てや犬の糞防止、その他環境保全などがありその活動の実績を重ねて参りました。最近では二酸化炭素を中心にした環境保全対策の活動が、国内のみならず地球規模で実施されるようになりました。

所沢市環境基本計画の中でも特に優先的に取り組むテーマとして、主に二酸化炭素に起因するところの地球温暖化対策を進めています。

本会もその趣旨に沿って今まで以上の実績を求められているものと認識しています。地球環境の悪化を少しでも改善すべく、本会の活動方針や組織を見直し、又地域の皆様（自治連など）との協業をより構築するなどが重要です。

改めて環境推進員の皆様のご協力とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

秋季視察報告

私達は地球で、交通網や情報網の恩恵を受けながら、資源環境の枯渇や自然環境の悪化に遭遇しています。これらの課題を前向きに捉える為、私たち環境推進員連絡協議会一行がつくばの国立環境研究所を訪れたのは昨年の11月でした。そこは循環型社会・廃棄物研究センターなど、今第一線で活躍する研究者の集まりです。当日は広兼主幹の説明で、大気に微量だが二酸化炭素などの温室効果ガスがあるおかげで現在の生態系が保たれており、このバランスが崩れると人類の存在や活動に影響が出ることや、二酸化炭素の地球大気組成が分子量存在容積比で0.03%であると聞かされ、新しい知識を吸収しました。また日本の大気濃度の観測点は北海道・根室と沖縄・八重山で観測、長期的な観測で地球上の温暖化対策基礎データとして貢献しているそうです。

翌日は、いわき市にあるクリーン・コールパワー研究所（東京電力他9社の合資会社）の石炭ガス化複合発電施設を視察、発電効率が10%上がり、二酸化炭素排出量も20%削減される施設であること、また次年度計画にはCCS（二酸化炭素回収・貯留技術）の開発を、小名浜海岸地下の常磐炭鉱廃坑にて実験するとのことでした。

地球上では埋蔵量が格段に多い石炭資源を有効に利用する技術開発が進んでいることを知りました。

● 生活者の眼で、普段知ることの出来ない情報を得ることにより、更に環境活動の内容を深めた視察でした。
(編集委員・K)



「好評だった環境講演会」

平成20年度事業の目玉となる環境講演会を1月23日(金)午後1:30からミューズ中ホールにおいて開催された。齊藤禮次郎会長の挨拶に続き当麻よし子市長のご挨拶。所沢の自然をバックに30分、歌姫アッシー・芦澤美由紀さんのクリスタル・ボイスでリラックスしたあと、いよいよ中村文子講師による「地球温暖化問題とエネルギー需給・家庭と職場で今できること」の講演に移る。地球温暖化という問題が大きすぎて庶民の生活と無縁のようだが話を聞いてみて実際に大きな因果関係があることが分かった。端的にいうと地球の温度が今より4℃も上がったら地球は異常気象が重なり生態系も狂ってしまう。この地球の危機を回避するには温室効果ガスの主犯・二酸化炭素CO2の排出を減らさなければならないが、CO2は石油や石炭など化石燃料



を燃やすことによって生じているわけで、私たちの豊かで便利な生活はその殆どがこのCO2を大量に排出することによって維持されているのである。エネルギーの確保すなわちCO2の排出という因果関係を左右することは最大の課題。それとCO2を吸収してくれる植林の推進。この地球の壊滅を避けるために今こそ私たちは国をあげて電気や水素エネルギーでの自動車、太陽、風力、地熱などのエネルギー開発による産業や生活などへ貢献できる施策を促し、食糧も自給自足の努力を始めなければならない。家庭では熱にかわる白熱電球を蛍光灯に、LED照明に代え節電に努めなければならないことを実感した。入場者は630人。

(編集委員・M)

「インターハイ開催地清掃活動」

新所沢地区・環境推進員 鈴木 興冶

平成20年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)は埼玉県が開催地となり県内各地で熱戦がくり広げられました。

わが所沢市はバトミントンと男子バレーボールの開催地となり、7月28日から8月2日までバトミントン、8月7日から10日まで男子バレーボール競技が所沢市民体育館をメイン会場として行われました。

全国から選手としてまた応援で訪れる方々を、少しでも良い環境づくりをしてお迎えしようと全市で取り組む中、特にメイン会場となる新所沢東地区としては、実行委員会の要請を受ける前からお手伝いできることがあればと考えておりました。常日頃の活動での実績もあり、商店会も力を入れていて環境づくりは出来ていると思われましたが、念には念を入れ7月27日と8月2日の両日総点検の清掃活動を行いました。天候にも恵まれ、所沢北高の生徒さんの心強い協力も得て、午前8時から1時間あまり清掃をしました。範囲は新所沢駅東ロータリから会場までの道筋と会場周辺道路。両日とも百名に近い参加がありました。特に学生さん達の若い力と推進員の共同作業がうまく噛み合っるととても良い雰囲気でした。結果として埼玉県勢が大活躍で大会に花を添えたことは嬉しいことでした。2月3日の実行委員会の総会では大会協力団体として会長である市長より表彰状をいただく栄誉を得たことをご報告させていただきます。



「もったいない市・活動状況」

所沢地区・環境推進員 小泉 英治



毎年春、秋の古着・古布・陶磁器を回収し、専門業者を通じてリサイクルしています。さらに回収された古着の中には、再利用可能なものについては、地域の方にリユースしていただきたいと「もったいない市」が開催されています。所沢地区の「もったいない市」では「再利用してください」と持って来てくださった品物を選別して並べると楽しそうに2・3点お持ち帰り頂く方が大半ですが、中には一人で大きな袋に一杯の衣類などを詰めている人が何人かいました。そこで参加した地区環境推進員から「大勢の人に利用して頂く」のに何か良い案はないものかと議論を重ねた結果「一点につき100円」寄付を頂くことに決め、平成17年より実施しています。平成20年秋は市役所旧庁舎一階ホールにて開催しました。

いまだに、無料ではないのかと一人か二人位、言われますが、寄付について説明すると納得されます。推進員35名の方が子供用品、婦人物、紳士物、陶磁器毎に選別し、整然と陳列された品物を楽しそうに選んでおられます。

毎回ご協力してくださる地区環境推進員の皆様に感謝いたします。

「歩きたばこ防止キャンペーン」



当協議会では平成20年7月1日午後6時から西武線所沢駅・JR武蔵野線東所沢駅など8駅前出口で第3回目となる歩きたばこ防止キャンペーンを行った。今回から地元自治会からの申請で新しく指定地区となったJR東所沢駅は昭和48年に開通、当時は野原の寂しいところだったが大型区画整理の完成で急速にベッタウン化、毎日2万人の乗降客で賑わっている。午後5時半、東所沢駅前に柳瀬・松井地区自治会員・環境推進員25人が集結し、「やめよう・歩きたばこ」

ののぼり旗のもと、声の大きい人が数人で、お願いしますと乗降客に呼びかけ作業を開始した。初めのうちは反応も悪く、ギクシャクしていたが、そのうち雰囲気も良くなり、チラシ・ティッシュ、携帯用灰皿と分担を決め、乗降客へ手際よく手渡し7時過ぎに終了した。中にはそっぽを向いて受け取らない人や税金が少なくなるぞとか税金の無駄使い、自己満足じゃないのかとつかかってくる人もいたが、大半はご苦労様といて受け取ってくれた。この作業と平行して10人ほどで駅周辺の広いロータリー周りや歩道の掃除をしたが、かなりの量のポイ捨てたばこやペットボトル等を回収した。駅近くに大きなビルも商店もなくその上乘降客に地元住民が少ないためマナーに乏しい面もあり、これから自治会の協力を得て地道に環境PRをしていきたい。(柳瀬地区・M)

「航空公園外周道路清掃活動」

吾妻地区・環境推進員 峯岸 邦夫

10月11日(土)小雨のバラつくなか各地区より300名もの推進員さんが参加されました。当初、この清掃活動を始めるにあたり、理事会に於いて地元地域では種々積極的な活動が実施されているが、各地区の推進委員が一同に会し、親交を深める場を作れないか、何か団体としてPRになる活動はないか、10月下旬に市民フェスティバルが開催されており、それに合わせて清掃活動を実施してはどうだろうか、などが発端でありました。

平成18年に第1回の清掃活動を実施し今回で3回目になります。清掃当日は、小雨を避けて木の下での会長の挨拶となりましたが、持ち場に移動する頃には雨も止み、賑やかに清掃が始まりました。時期的にはまだ落ち葉が少ないが道路と縁石の隙間に根

深く食い込んだ雑草には手を焼く。又植え込みの中から飛び出しているカヤや鶯などは手がつけられないばかりか通行の妨げになっています。歩道上のみの清掃では、見た目きれいになったとは思われません。県で手入れをするのが11月下旬から12月上旬のようですがこの作業を繰り上げてもらえないものでしょうか。年毎に多くの参加者が集い、この活動も継続してこそ意義があると思います。



所沢市の「環境基本計画」の中に「参加と協調により環境を育てるまち」がうたわれております。この環境目標に向かい推進員が自覚と責任をもち、行政の協力団体として各事業に積極的に参加していくことが推進員の義務であると思います。

「不老川今昔と水質浄化推進に想う」

三ヶ島地区・環境推進員 田中 喜英

今から概ね、50年前不老川は歳取らず、今は歳取り川「不老川」となりました。不老川は4・5月頃より満々と清流が流れ出し、12月頃には自然に一滴の水も無くなり、節分を過ぎ本格的な春を迎える頃より忽然と大量の清水が急流となって流れ出ます。洪水対策の為、川床及び護岸工事を行い、河川敷は自然に生えた大樹が切り倒され、不老川は7曲り、林川は12曲がりとなつて名付けられた箇所が、洪水改修工事という名目で全て直線化され、源泉以外の両護岸から湧き水も無きに等しくなり、自浄力が全く無くなり汚水は日本中でワーストワンとなりました。このため、近隣住民全戸が参加し川底清掃、河川敷の草刈、植木の植

栽手入れなどにより、水の透明度は昔に戻りつつあります。私の近隣に谷川、中村川、樽井戸川の支流があり、更に砂川堀川、東川がありますが全て開発により昔からの源泉は潰され、ずーっと下流になって湧き水が源流となっています。大雨が降らないと水が無きに等しい現状を行政に委ねて、より一層早く昔の面影を取り戻し、後世に残してやるのが大切と考えています。



「支えよう・生ごみ資源化」

富岡地区・環境推進員 小林 輝邇

富岡地区（エステシティ）に住んで20年、緑豊かな地区の一角です。1年ほど前より「生ごみ資源化推進員」の主婦の活動を横目で見ながら参加すべきか否か迷っていましたが、参加するには家族の協力が必要で、臭い、出したときの清掃、回収のときの立会いなど、いかほどの難しさが伴うものか、聞いてみましたら一切の心配事が無いということなので試験的に私のマンションの住民15人ほど誘って入会しました。市から小さなバケツと40リットル用（集積用）バケツが届き週2回の回収が始まりました。私は始めた責任上（水・土）回収ポリバケツを持って集積所まで運びます。夏場の臭いやハエなどの虫も全く気にせず、やる気さえあれば誰にでも可能と思うようになりました。この活動によって生ごみが資源化（畜産農場にて堆肥化）され農家の皆さんがそれを利用して生産された野菜を月一度エステシティの集会所広場

にて販売されます。協力地区を数箇所回ってくるので時々買いたい野菜がなくなることがありますが廉価で甘みがあると評判です。生産された肥料も最近では住民が買い求めるようになりました。このような活動がエステシティ団地内に十ヶ所あり70世帯の協力が得られるようになりました。エステ内の環境推進員の間では野菜の予約販売制もあってよいのではとその準備もされつつあります。野菜販売では地区の祭りにも参加し住民の協力で完売した実績から次年度の計画も練られています。これらはまだ始まったばかりの活動ですが所沢市の環境基本計画の重点テーマの二番目に「生ごみ減量と資源化」が掲げられているようにいよいよ本気で住民も参加する時代になっていると思います。



春・秋の「環境美化の日」一斉清掃活動の結果報告

平成20年度の活動実績

春〔平成20年5月25日（日）〕

参加人数 19,631人

ゴミ回収量 43.89トン

秋〔平成20年11月9日（日）〕

参加人数 20,872人

ゴミ回収量 36.92トン

* 春には、当麻市長に富岡地区のエステシティ自治会の清掃活動に参加していただき、ご参加の市民の皆さんと交流を持っていただきました。有難うございました。



レジ袋削減・マイバッグ推進

キャンペーン活動に参加しました

市廃棄物対策課では、CO2削減・地球温暖化防止のため、スーパーマーケット等で買い物をする際にマイバッグの持参とレジ袋の削減を図り、これをきっかけに市民の皆様がライフスタイル見直しを促すため、ごみの発生を抑制する街頭キャンペーンを10月15日（水）午後3時から4時まで、所沢駅西口周辺にて行いました。当日は所沢市長をはじめ、斉藤会長、各地区の環境推進員の理事さん方、所沢地区の環境推

進員30余名の方のご参加を頂き、通行の市民の皆さんに1,200個のマイバッグやチラシの配布を行って「レジ袋削減・マイバッグ推進」を訴えました。さらに、年明けの2月19日（木）にはダイエー所沢店の協力により店頭で、所沢市長・斉藤会長、所沢地区環境推進員4名の方の参加のもと、2回目の街頭キャンペーンを行いました。用意した600個のマイバッグは、15分ほどで配り終わり、市民の今後の協力が期待されます。

（事務局 生活環境課 尾山）

「環境推進員連絡協議会」のホームページへのアクセスのご案内

1. 所沢市ホームページのトップページへアクセス。
2. 「くらし」の矢印をクリック。
3. 「くらし」のページの中で「生活環境」のなかの「環境」をクリック。
4. 「環境推進員連絡協議会」をクリック。
5. 「環境推進員連絡協議会」のページにアクセス完了

編集後記

本年度も終りに近づき、1年間の特記すべき事を記事にしました。編集委員（小林、丸山、毛利）も新しくなり、広報誌も、読みやすく、広く市民の皆様にも親しまれるように頑張ります。